

テープカットで開庁を祝う
津別町役場新庁舎開庁式

5月6日、津別町役場新庁舎がオープンし、開庁式が新庁舎ロビーで行われました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、関係者のみで執り行いました。来賓を代表して高橋文明北海道議会議員は「外も中も木材がふんだんに使われており、町づくりに対する思いが結集されている庁舎だと思えます」と祝辞を述べました。

関係者によるテープカットが行われ、津別町役場庁舎は新たなスタートを切りました。



▲関係者によるテープカットの様子

新庁舎の完成を祝い
津別建設業協会、(株)中神土木設計事務所から町へ寄附

4月26日、津別建設業協会から役場庁舎と消防庁舎の新築御祝金として町に100万円の寄附があり、林業研修会館にて贈呈式が行われ、清水靖則会長より目録が贈られました。

また、4月28日には、株式会社中神土木設計事務所から新庁舎建築御祝金として町に100万円の寄附があり、中神拓社長より目録が贈られました。両者に佐藤町長から感謝状を贈呈し、お礼を述べました。



▶目録を手にする佐藤町長(右)と清水会長



▶目録を手にする佐藤町長(右)と中神社長

津別小学校木製遊具の塗装修繕
津別建設(株)が修繕ボランティア

4月24日、津別建設株式会社が無償による小学校の木製遊具塗装修繕を行いました。



▶塗装修繕の様子

同社による社会貢献活動の一環として、平成27年から毎年、校地内の雪割り活動や花壇の修繕などが行われていました。今年度は、子どもたちが大好きな木製遊具をきれいに塗り直していただきました。木製遊具を通して、子どもたちが楽しく木に触れ、興味・関心をもって地域を理解し、郷土愛を育む環境整備となりました。

グラウンドで安全に運動を
整備ボランティアを実施



▲グラウンド整備の様子

5月7日、株式会社NIPPON北網出張所が無償による小学校および中学校のグラウンド整備を行いました。平成22年から実施されている同社のボランティア事業の一環で、今年で12回目の整備作業となります。トラクター、ロードローラーを使った整地と踏み固め作業に加え、手作業による草取りも行われ、屋外運動シーズンを迎えたグラウンドは見違えるようにきれいになりました。

児童・生徒たちは安全に体育授業や部活動に取り組むことができそうです。

令和3年津別町成人式を開催
31名が新たに大人の仲間入り

新型コロナウイルスの影響により、開催が延期となっていた令和3年津別町成人式が、5月2日、中央公民館で執り行われ、31名が新たに大人の仲間入りをしました。

式典では、宮管教育長が「人との繋がりを大切にしながら、これからの日本を築く希望の光となっていくものと期待しております」と式辞を述べ、続いて佐藤町長、鹿中町議会議長ら来賓の方々から新成人に向けて温かい祝辞が贈られました。これに続いて、新成人が全員で町民憲章を朗読し、出席者を代表して平田純人さんが成人の誓いを読み上げました。



▲町民憲章を朗読する新成人のみなさん

北見室内管弦楽団によるミニコンサートや、恩師からのお祝いビデオ上映もあり、出席者の思い出に残る式となりました。

長年の功績を称えて

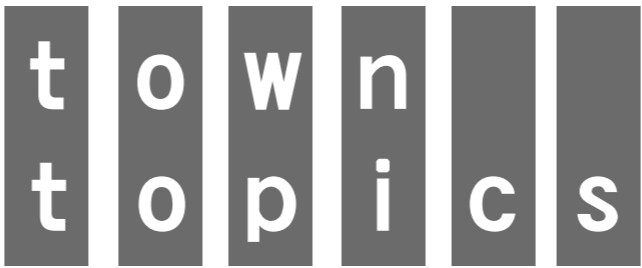
高橋分団長が永年勤続功労賞を受章
今井元分団長へ感謝状を贈呈

4月27日、町長室において、高橋正行分団長の永年勤続功労賞表彰式と、今井保徳元分団長への感謝状贈呈式が行われました。

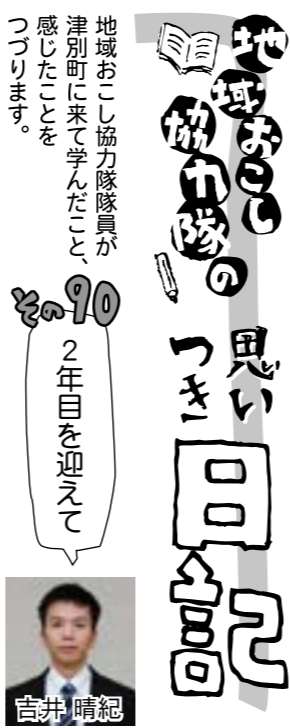
高橋正行分団長は、令和2年度消防功労者消防庁長官表彰を受章され、佐藤町長から表彰状と記念品が手渡されました。



今井元分団長は、昭和62年に入団以来多年にわたり地域の民生安定と財産の保全に尽力され、その功績をたたえて佐藤町長より感謝状が手渡されました。



まちのわだい



令和2年4月から津別に暮らす1歳の娘の成長に驚きの日々を送っている。



吉井晴紀

令和2年4月に津別に移住してから1年が経ち、寝返りもできなかつた娘は自力で歩くようになり、家の中を散らかしては奇声を上げる、歩く怪獣と化している。そんな怪獣との闘いの日々を過ごす中、コロナ感染は未だ収束を迎えることなく、感染者数が増加している。

感染者数が増加している一方で、雪の量は減少しているように感じる。今年、岩見沢では記録的積雪量となったが、ノンの森の積雪量が例年よりも少ないということが、数年前の写真を見るとよくわかる。

雪が少ないと除雪の手間がないというメリットはある反面、ノンの森で

森で行っているスノーシューツアーやイベントができないというデメリットがある。雪国のガイド業にとって痛手である。

また生態系にも影響があり、クリンソウも年々数が減少している。これは雪不足により、湿地になる水が不十分で土壌が乾燥し、その結果、クリンソウは生育ができなくなるからだ。

そこでクリンソウは子孫を残すため、より遠くに種を蒔くことができる大きな体を持ち、川の流れのある場所に身を置くことで新たな生息域の確立を図っている。私たちの将来のヒントは案外身近な生き物から学ぶことがあるかもしれない。